

〔認知症対応型共同生活介護用〕

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月18日

【評価実施概要】

事業所番号	0770301950		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム郡山日和田		
所在地	福島県郡山市日和田町財ノ木原 1 5－4 (電 話) 024-968-2550		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利七社宮111		
訪問調査日	H20.3.5	評価確定日	H20.4.28

【情報提供票より】(20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年 5月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	25 人	常勤 24人, 非常勤 1人,	常勤換算24.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	3階建ての 1~3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	75,250	円	その他の経費(月額)		円
敷金	有（	円）	無		
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（100,000	円）	有りの場合 償却の有無	有	無
食材料費	朝食		円	昼食	円
	夕食		円	おやつ	円
	または1日当たり		825	円	

(4) 利用者の概要(2月 1日現在)

利用者人数	27 名	男性	11 名	女性	16 名
要介護1	7 名	要介護2	9 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2			
年齢	平均 84 歳	最低	71 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ひわだ太田診療所、本間医院、ニコニコ歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

前回の指摘を受け、介護計画作成時に家族の同席を求める取り組みや、鍵をかけないケアの実践に向けて努力していた。しかし、まだ充分とは言えないため、継続して取り組んでいって欲しい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の指摘を受け、介護計画作成時に家族の同席を求める取り組みや、鍵をかけないケアの実践に向けて努力していた。しかし、まだ充分とは言えないため、継続して取り組んでいって欲しい。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各フロア毎にスタッフ間で話し合い、それを取りまとめて管理者とホーム長が自己評価票とした。外部評価の意義に関してもスタッフへ周知されており、ありのままを見てもらって、よりよいものを目指していきたいという姿勢が感じられた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	2ヶ月に1回定期的に開催され、参加者の意見を採り入れていこうとしている。しかし、どんなことを議題としていったらよいかが不明瞭で、ホーム側からは行事の報告や協力要請が多く、委員からの意見があまりでていない。今後は、家族の参加を増やしたり、具体的なテーマに添った協議をすることにより、効果は期待できる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームへの来所時や、種々の連絡の際に家族の話を聞くようにしている。特に、責任者以外のスタッフも積極的に家族と話をするように、勤務者に担当を配置するなどの工夫をしている。また、寄せられた意見に関しては、運営推進会議や職員にその内容と対応を報告するなどしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	昨年の夏祭りが地域住民と直接交流できた場であった。今は、毎日実施している散歩の折に地域の方に積極的に挨拶をしたりすることをおして、地域にホームの存在をアピールすると共に、緊急時に協力いただけるような連携を目指している。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	愛の家グループホーム郡山日和田として3つの運営理念を掲げ、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「今月のベストスマイル賞」を職員間のアンケートで決める、などの取り組みをはじめとして、毎日朝夕の朝礼時に理念の唱和を行い、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の町内会(川坂町)にも加入し、地域の一員として各種行事に参加し、事業所の夏まつりには地元の人々の参加を得て親しく交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が評価の意義を理解し、自己評価に取り組んできた。さらにユニット長が評価結果を活かした改善目標を読み上げるなどの取り組みが見られた。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、ホームの活動状況などの報告と出席者からの質疑などを議事録に収録し、サービスの向上に取り組んでいる。	○	3ユニットで家族代表が1人では家族の意見が汲み上げ難いと思われる。各ユニットから1名ずつの家族参加があれば更に充実した会議になると思う。
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、ベストショットと称した利用者の写真と共に生活の様子を手紙にして、請求書と一緒に送っている。また、先月から職員の異動に関しても文書でお知らせするようにした。体調不良時などは随時個別に連絡をし報告相談している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所した際や、電話連絡をした際などに、要望、意見を尋ねるようにしている。また、その意見を聞いて職員の異動を文書で知らせるなど、運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動が決まった際には、なるべく時間をかけてそのことを利用者にお伝えすると共に、新人は馴染みのある職員と共に行動し、個々の利用者のことや仕事を覚えてもらうようにしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格の取得を推進したり、外部研修の機会には希望を聞いて参加に配慮している。法人の内部研修やホーム内においても外部研修の伝達や、スタッフの希望のテーマに添った研修などを計画的に実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会への参加はあるがまだ実践報告等の経験はない。今後は発表にも取り組んでいきたいという積極的な声が聞かれた。退職した職員が訪ねてきたり、その人の勤務先を訪ねたりもしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 (小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している (小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	95歳の利用者が中心となり、利用者と職員が共に敷地内にある畑の作業を行っている。また、ホームを自分の店舗だと思っている利用者が安心して商品やサービスを置くなどの配慮をしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話ができる方には、必ず意向を確認する姿勢があり、話せない方に関しては、家族と相談して情報を集めたり、本人の気持ちに近づこうとしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット毎に休みのスタッフも参加して会議を開き、協議して介護計画を作成している。また、家族へも参加を呼びかけているが、日程はホーム側で決め知らせも直前のため、なかなか参加してくれる方は少ない。連絡の際に意見等を聞くなどの工夫はしている。	○	介護計画の内容の表現がまだ不十分である。例えば、水分摂取が必要な方の目標量の表記と日々の摂取量を記録することになっているが、根拠を持ってどのくらいの量であれば許容範囲かを示し、不足する際の対応なども、計画として記載して欲しい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画はきちんと定期的に見直しを図り、同意を得て作成している。また、体調不良時など、変化があった際は、日報の中に毎日記載し続けることと、連絡帳に記載してリーダーが職員に注意を促すなどきちんと対応している。	○	介護計画を作り直す必要までないような短期間の対応であれ、実際に行ったことを、きちんと記録に残し、その積み上げを定期的な介護計画の見直しや、対応に役立てて欲しい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）			

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医に受診することもでき、また協力医療機関から往診の形で来てもらうこともできる。受診予定日ごとに病院名と利用者名が分かるようになっており、必要に応じて職員が受診の付き添いをしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所としての「看取りに関する指針」は出来ているが、重度化した場合の終末期のあり方について、かかりつけ医や家族との話し合い及び家族と方針の共有はされていない。	○	重度化については何れ避けて通れない問題であり、家族・かかりつけ医との話し合いが大切である。終末期に向けた利用者ごとの方針を協議し、家族と方針の共有をしておくことが望まれる。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	朝夕のミーティングなどで、利用者一人ひとりに対する接遇について確認するほか、言葉かけや対応に留意している。記録等の個人情報は適切に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の際に、ゆっくり食べる方や他の利用者の配膳を待たずに食べる方など、その方のペースに合わせて支援している。また、希望にそった暮らしの支援をするために、様々なゲームや縫い物などをすぐに手の届くところに置いておく工夫をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛りつけや後かたづけに参加する利用者もいる。食べているときには、談笑する姿が見られ、互いに、メニューを話題にしたり、そこから好きな食べ物の話をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるようにしている。浴室が2階、3階部分は2カ所（1階のみ1ヶ所）あるため、希望に添った時間にゆっくり入れるようになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援（認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入）					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	楽しみごとの希望を表に出す方が多いが、希望を表に出さない場合は、楽しみごとの種類を広げられず苦慮するときがあるものの、一人ひとりに話を聞きながら、楽しみ事を探すようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	毎日の散歩の他に、電車を使ってイルミネーションを見に行ったり、初詣に出かけたり、イチゴ狩りにいったりと様々な外出の機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前、無断でホームから外出し保護された事例があったため、鍵をかけないケアに不安があることと、近くで大規模な道路工事が行われており、危険ということで、玄関の扉は日中も施錠している。	○	「危ないから」「不審者進入防止」のためにという理由で日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解し、工事終了後は、日中玄関に鍵をかけなくともケアが行えるように取り組んでいただきたい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練はやっているが、夜間を想定した訓練は行っていない。地域の人々の協力は希薄である。	○	特に3階建て(3ユニット)ということを検討し、近隣住民の協力を得た独自の避難訓練を行ってほしい。また、夜間を想定した避難訓練も行ってほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量などを観察し記録している。また、個人の身体状況に応じた食器やスプーンなどを工夫し、食事の支援をしている。	○	水分量に関しては、摂取量が疾病と関連するので、その把握にとどまらず、最低量あるいは最高量についても個々の利用者事に把握し、対応することを目指して欲しい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、利用者手作りのウェルカムボードが掲示されており、暖かな雰囲気を出している。共有スペースの温度は適切であり、不快な臭いなどはない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、好みのものを飾り付けていたり、馴染みのものを持ち込んであり、自分の部屋という意識が持てるようになっている。居室の前にのれんを飾る方がいたり、表札を出したり、画一的ではなく個性が感じられる。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 愛の家グループホーム郡山日和田

記入担当者名 平石 文紀

評価結果に対する事業所の意見
特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目№を記入してから内容を記入してください。